



ひよこ相談だより

2020.9 No. 6



みなさんはどんな夏を過ごしましたか。

今年は、全国各地で記録的な暑さが続きました。

子どもたちが大好きな公園遊びを我慢させた日もあったことと思います。

まだ暑さは残りますが、過ごしやすい時間にはぜひお外に出てみてください。

真っ赤な夕焼け、すいすい空を飛ぶとんぼ、ぴよんぴよん跳ねるバッタなど、お子さんとたくさんの発見を共有してくださいね。



うたあそび



「やさいのうた」

♪ トマトは トントン

キャベツは キャツキャツキャツ

キュウリは キュツキュツキュツ・・・♪

「バスにのって」

♪ バスに乗ってゆられてる(2回続ける)

そろそろ右に曲がります

3, 2, 1, キー!・・・♪

◎ おうちにあるおままごとセットを使ったり、おうちの人を書いた絵を見せたりすると、身近な野菜に興味を持つと思います。

◎ 食卓の時間やスーパーで本物を見たときは、「トントンのトマトあったね!」と声をかけてあげましょう。

◎ お子さんをひざに乗せて、揺らして歌を楽しみましょう。「動物園に出発ー!」、「じいじ、ばあばの家に行くよー!」などご家庭ごとでアレンジしてみましょう。

◎ 年齢が上のお子さんは新聞紙などで作ったハンドルを持たせ運転手さん気分になったり、バックや帽子を身につけてお出かけ風にしたりと、更に盛り上がるかもしれませんね。

うたに関連する 手話表現

「トマト」



「かぼちゃ」



「ピーマン」



「バス」



ことばの 質問コーナー

補聴器を5ヶ月から付け始めました。嫌がって外そうとする時期もありましたが、今はだいたい日中は付けていられるようになりました。でも1歳を過ぎても「ママ」「パパ」などのことばが出てきません。近所のお子さんは同じくらいの月齢で、もう「ママ」「アッタ」などお話ししているのに……。いつになったらことばが出てくるのでしょうか。



補聴器を長い時間付けられるようになったのですね。頑張りましたね。そうするとすぐに「音が入ったのだから、ことばが出てくるはず。」と思いがちです。でもなかなか出てこない。そのことに、焦りを感じるパパ・ママは多いようです。

でも考えてみましょう。ご近所のお子さんは生まれたときから耳が聞こえていました。「ママですよ。」と自分に向かって話しかけられることはもちろん、パパとママの会話、周囲の環境音などが、意識することなく、全て耳に入ってきていました。1年間そうやって音やことばの刺激を受け続けてきてようやく「ママ」「アッタ」と話し始めているのです。

いっばう聞こえにくいお子さんは、補聴器を装用するまでの5ヶ月間、音やことばの刺激を受けずに育ちました。だから脳の中に積み重なっている音やことばの数は、聞こえるお子さんに比べて格段に少ないのです。

さらに補聴器の音は、性能が良くなっているとはいえ、人間の耳がとらえる音とは全く異なります。聞こえにくいお子さんは、補聴器で聞いた音を周囲の状況、自分の経験などと照合して一生懸命考えながら音を聞いているのです。そのため、お子さんに与えることばは「音声言語」だけではなく「視覚的情報（身振り・手話・絵や写真・実物）」を併せてあげると、よりわかりやすくなるでしょう。

お子さんは今、様々な音やことばの情報を取り入れ、脳の中で整理している段階だととらえましょう。そしてたくさんの音やことばの情報が脳の中にいっぱいになったとき、お子さんのことばはあふれ出てくることと思います。それは「ママ」という音声言語であるかもしれませんが、「ママ」を表す手話であるかもしれません。どちらもお子さんにとって、自分の思いを表現する大切なことばです。笑顔で答えてあげましょう。

